

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	玉腰 宏之	経営	H2201003
	②	大川 貴子	福祉	H2301029
	③	岩井 智子	福祉	H2301113
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	京西小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	158-0097		
	所在地	世田谷区用賀4丁目27番4号		
	TEL	03-3700-6837		
事業所代表者氏名	事務局長 板津 恵			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 10 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 5 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 10 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 19 日			
評価合議日	2025 年 9 月 19 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)子どもが楽しく過ごし行きたいと思えるような居場所 2)子どもが安心して発信でき、子どもの参加と意見や意向が大切にされる場所 3)子どもが安全で安心して過ごせる居場所 4)多様な子どもがお互いに尊重し、合理的な配慮のもと、ともに過ごせる居場所 5)家庭における子育てをしっかりと支えられる居場所</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者に寄り添えるコミュニケーション能力のある人材 ・児童の安全確保(来所、退所)の確認、間食の提供など学童クラブ機能をきめ細やかに遂行できる人材 ・専門知識や倫理観を持ちチーム枠を重視する人材 ・対人支援を理解して児童に対する課題を見つけ改善方策を見いだせる人材 ・研修などに積極的に参加し技術の向上のため自己研鑽できる人材 ・すべての児童が孤立したり排除されることのない、社会の一員として平等であるインクルーシブ環境を考えられる人材 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキルの高い人より一緒に考え仕事をしていきたい、話の旨い人より話しかけやすい人とのコミュニケーションを基盤にチームを組み組織として成果を上げていく使命感 ・児童の個性を理解して、職員間での情報共有を大切に子ども同士の関係を断続的に見守りができる使命感 ・公的な職場で公務員として倫理感を持ち職務にあたる姿勢がある ・児童が心身ともに満たされ精神的、環境的にも良好な状態にあることを目指す使命感

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

138

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
138	0	138
42	0	42
30.4	0.0	30.4

利用者調査全体のコメント

調査対象者138名のうち、42名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「職員の接遇・態度は適切か」「おやつ
 の時間が楽しいひとときになっているか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか」「子どもの
 気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、41名が「大変満足、満足」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「友達がいるから
 楽しい」「みんなで仲良く遊んでいる」「もっとおもちゃを増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	37	2	0	3
37名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「友達と一緒に遊べるから楽しい」「本を読んで過ごしている」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	36	4	0	2
36名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生が丁寧に話を聞いてくれるから嬉しい」「いつも忙しそうに見える」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	37	5	0	0

37名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「おやつがおいしい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	25	4	0	13
25名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生たちが考えてくれる」「話し合いに参加したことがない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	36	1	2	3
36名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。ルールの周知がしっかり行われている様子がうかがえる。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	24	13	2	3
24名が「はい」、13名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。清潔で整った環境が維持されている様子がうかがえる。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	38	3	0	1
38名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。職員の対応が丁寧である様子がうかがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	39	1	0	2
39名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「いつも丁寧に対応してもらえる」「先生は皆を守ってくれると思う」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	36	1	1	4
36名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。全体的に肯定的な回答が多いなか、「忙しくて気付いてもらえないことがある」とのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	37	2	0	3
37名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。子ども主体の姿勢が実践されている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	32	1	0	9
32名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。安心して過ごせる環境が保たれている様子がうかがえる。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	35	3	0	4
35名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。子どもの声に耳を傾け、改善が図られている様子がうかがえる。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	1	1	24
16名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」、24名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念や方針を共有し、職員・保護者と連携して安全、安心な居場所づくりを進めている 区の運営指針に基づき理念や事業方針を明確にし、室内に運営目標を掲示している。日々のミーティングでは、支援の振り返りや課題の共有に加え、めざす子どもの姿を繰り返し確認している。参加できない職員には勤務時間内で内容を伝え、記録を活用した情報の蓄積と伝達も行われている。保護者には保護者会で基本方針や取り組みを丁寧に伝え、おたよりや入退室管理システムのメールで周知し、日々連携している。こうした積み重ねにより、職員が共通認識を持ち、子どもたちの安全、安心な居場所づくりを支えている。	
	事務局長を中心に方針共有と役割調整を行い、全体で目標に向かう体制を築いている 事務局長は日々のミーティングで事業方針を伝え、正規職員と相談しながら、指導員の経験や得意分野に応じてBOPや学童クラブの担当などを決めている。職務分担の文書を配布し、意見を聞きながら評価や承認を重ね、業務が円滑に進むよう工夫している。必要に応じてブレイングパートナーに勤務規律などについて丁寧に指導している。さらに年度末の全体会議を大切に、計画や役割分担、成果と課題を共有している。こうした取り組みにより、リーダー層が方向性を示して職員を導き、クラブ全体が同じ目標に向かって進める基盤がつけられている。	
	重要事項は協議・共有され、職員や保護者へ多様な手段で丁寧に伝達されている 重要な案件は所管課の決定を受け、事務局長会や館長会で協議し提言される流れがある。決まったことや経緯は職員に報告・回覧、配布し、ミーティングでも伝え、業務日誌に記録している。保護者へは学童クラブだよりや掲示物、入退室管理システムのメールなどで、必要に応じて情報を届けている。こうした多様な手段により、職員や保護者にも過程が分かりやすく伝わっている。学童クラブの大規模化が進む中でも、学童クラブとBOP児童が同じ空間で過ごす居場所づくりが進み、情報の共有が保護者の安心感、職員の一体感につながっている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者や職員の声を支援に活かし、子どもが安心できる環境を築いている</p> <p>保護者の要望は、保護者会や個人面談、送迎時の会話などを通じて把握している。例えば「体温調整が難しい体質なので、暑い時期に水遊びを取り入れてほしい」との声を受け、ヨーヨー釣りなどと組み合わせた行事を実施したところ、子どもたちも楽しみ、保護者の信頼が深まる事例があった。また、リーダー層は職員から振り返りシートや意向調査で意見を集め、担当業務に不安のある職員とは面談を行い、小さな要望への対応や支援方法の検討を重ねている。その積み重ねが、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりにつながっている。</p> <p>行政資料や会議の情報を活かし、地域を重視して事業運営に取り組んでいる</p> <p>クラブでは、児童館長や管轄事務局長との連絡会を通して地域の状況を把握している。学校との関係は、前年度の課題解消に向け新BOP連絡協議会の内容を検討して参加依頼し、丁寧な関係構築に努めている。また、連絡協議会ではクラブの現状や課題を伝え、青少年委員や主任児童委員と情報を共有し、子どもを支える地域のあり方について共通理解を深めている。さらに、職員は制度の動向や求められる役割を意識し、行政資料や会議で得た情報を収集し活かしている。地域とのつながりを大切にして、安定した事業運営に取り組む体制を整えている。</p> <p>職員による年間活動の振り返りを次年度の計画に活かし、実施体制を明確にしている</p>		

職員は、所管課で策定された中・長期計画をもとに、毎年3月に振り返りシートで1年間の活動や子どもへの関わりを見直している。出された課題は職員間で共有し、次年度の計画に生かしている。また、3か月ごとに支援目標を設定し、ミーティングで進捗を確認して改善点を共有している。リーダー層は職員の特性や経験に応じて役割分担を行い、特に、要支援の子どもへの対応など判断が求められる場面では、協力して支援している。職員は計画的に子どもへの支援を行える体制が整っている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

カテゴリ-3の講評

倫理や個人の尊厳などの遵守を徹底し、講話や日常の共有を通じ職員の意識を高めている

リーダー層は、全職員に、社会人、公的施設の子どもにかかわる職員として守るべき法や規範、倫理、個人の尊厳について、新BOP運営基準などを通して伝えている。半年に一度、服務規程や公務員倫理の手引きを用いた講話も行って意識を高め、共有できるようにしている。日常のミーティングではお互いの遵守状況を確認し、注意し合える雰囲気大切にしている。また、ミーティングに参加しないプレイングパートナーには、手引書を使い、服務規律を守って安全・安心に子どもに対応できるよう事務局長が丁寧に指導している。

保護者の声を丁寧に受け止め、各機関と連携しながら職員対応の見直しにつなげている

保護者会や個人面談などを通して子どもや保護者の意向や要望を丁寧に把握し、状況に応じて所管課や児童館長と連携して迅速に対応している。前年度は苦情件数が多かったため、リーダー層が中心となって日常の対応を見直し、全職員が意識して対応することで、現在は大幅に減少している。要支援や外国籍の子どもへの対応についても職員間で意識を共有し、配慮して対応している。また、必要な事例が発生した際には、マニュアルに沿って学校や子ども家庭支援センターと連携し、虐待防止に取り組む体制が整っている。

地域とのつながりを広げ、情報発信と連携を通して子どもを支える体制を築いている

クラブでは、新BOPだよりを学校に配布し、地域や児童館にも届けている。新BOP連絡協議会では、活動内容を地域に情報開示し、教員志望の高校生ボランティアの受け入れで地域とのつながりを深めている。また、区のスポーツ推進委員や看護師に依頼し、ポッチャやTボール、タグラグビー教室、健康講座などをBOPの子どもたちも含め計画している。さらに、児童館地域懇談会や子育て支援センターの会議に参加し、虐待ケースや共通課題の情報を共有して、地域と連携した子ども支援体制づくりにも取り組んでいる。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>防災、防犯訓練やBCPに基づく体制整備で、安心・安全な運営を実践している</p> <p>クラブでは、防災や防犯の避難訓練を学期ごとに実施し、玉川警察署のセーフティ教室では子どもたちが防犯意識をわかりやすく学んでいる。職員も課の看護師からアレルギーやけいれん発作への対応を実技で学び、すぐに現場で活かせるよう備えている。緊急時には、区の事業継続計画(BCP)にあたる「災害・緊急時の対応について」に沿って学校と連携し行動し、子どもを守る体制を整えている。その内容は入会時に保護者にも説明し、連携できるようにしている。職員間では、安全対策マニュアルなどを基に定期的を確認し合い、体制作りを進めている。</p> <p>クラブでは安全対策を徹底し、事故後の共有と再発防止に継続して取り組んでいる</p> <p>クラブでは、けがや体調不良時には安全対策マニュアルに基づき、医療行為以外の適切な対応を行っている。保護者には速やかに連絡し、状況に応じて迎いの依頼や受診の相談を行うことを、入会時に説明している。けがが発生した際には、発生時の状況や対応内容を整理した事故報告書を作成し、ミーティングで職員全員が振り返りを行っている。原因の分析や改善点を協議し、所管課へも報告して再発防止につなげている。また、職員は日々の振り返りを通して安全意識を高め、子どもたちへの周知にも努めている。</p> <p>個人情報保護を徹底し、書類、パソコンデータともに安全に管理する体制を整えている</p> <p>クラブでは、所管課作成の個人情報マニュアルを活用し、職員への周知は定期的なミーティングなどで行い、個人情報やコンプライアンス研修も必ず受講することになっている。入会申請書、児童台帳、アレルギー調査票、児童票などの重要書類は鍵付き書庫で保管し、個人情報の持ち出しは禁止している。始業時や退庁時には複数職員で確認し、日々の工夫で整理・管理している。パソコン内データも活用しやすく整備し、情報の重要性や機密性を考慮して職層に応じたアクセス権限を明確化し、施錠管理やパスワード管理も徹底している。</p>		

5			カテゴリ-5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリ-1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリー5の講評

職員の採用・配置を工夫し、人材育成と働きやすい環境づくりを進めている

常勤職員と会計年度任用職員は区として採用され、会計年度任用職員の募集は区のホームページに勤務条件を掲載して人材確保に努めている。プレイングパートナーは各クラブで採用し、近隣の大学生や職員の紹介で対応している。職員の異動や配置にあたっては、事務局長や館長が面談を行い、家庭状況や通勤時間などの希望を確認している。また、役割分担表を整え、服務規律を徹底しながら人材育成を進めている。必要な人材を確保し、職員がやりがいをもって安心して働ける環境づくりを進めることが、子どもへのより良い支援体制の実現につながっている。

職員同士の支え合いや評価の共有で、安心して働きやすい環境が整っている

職員の評価や処遇については、提出された意向シートをもとに館長・事務局長で情報共有している。年1回の面談では一人ひとりの意向や負担感を把握し、日常的にも相談や悩みを話しやすい雰囲気づくりを大切にしている。リーダー層は職員の良い点を積極的に認め、小さな成功を自信につなげられるよう丁寧に支えている。ミーティングでは互いを尊重して意見を出し合い、行事では支え合う体制が整っている。このような環境により、職員はやりがいや安心感を持ち、意欲の向上や定着、組織の安定にも大きく結びついている。

研修や日々の気づきを共有し、課題解決や改善につなげて意識とチーム力を高めている

職員は研修参加後に報告を行い、全体で内容を共有して学びを組織全体に広げている。日々の気づきや工夫は日常の業務や月1回のミーティングで出し合い、課題解決やサービス改善につなげている。行事終了後には、全体で反省点や課題を出し合い、担当者が報告書を作成して次回に生かしている。学びを共有することで互いに刺激を受け、意識や向上心が高まり、成果や達成感を実感する機会にもなっている。全員が偏りなく意見を出せるよう工夫され、職員一人ひとりが役割を果たすことでチームとしての力も高まっている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

子どもたちが日々の生活を楽しく過ごせるよう、日常的な室内外での様々な遊びに加え、イベントを企画し、その遊びを通して様々な交流や体験ができるよう遊び環境の充実を図る。

【具体的な取り組み】

年間を通じたイベントを計画し、毎月担当者を決めて職員全体で確認・分担する。

職員のそれぞれの得意分野や子どもの興味を踏まえて企画、子どもの声を日々の遊びから取り入れ、行事化への工夫をする。

【取り組みの検証】

イベント後に職員で反省点や課題を出し、報告書にまとめ次回に活かした。

子どもの感想や意見を聞き、ルールの見直しや要望を反映した。

もっとやりたいという子どもの要望を取り入れ、同じ内容で2回目の開催をすると子どものイメージができ期待感が高まった。

【今後の方向性】

子どもの意見を取り入れ、イベントの振り返りを通じて職員間で課題をみつけ共有していく。

子どもが自主的に企画できるよう、職員が支援していく。□

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、子どもが日々楽しく過ごせるよう、年間を通じたイベントを計画し、職員同士で役割を分担しながら協力して取り組んできた。企画にあたっては、職員の得意分野や子どもの興味を踏まえるだけでなく、日々の遊びや活動から出てくる子どもの声を行事に反映させる工夫をしている。イベント実施後には、子どもたちの感想や意見を聞き、職員間で振り返りを行い、課題を共有して次回に活かしている。特に、子どもの要望を取り入れて同じ内容で2回目のイベントを企画した際には、子どもたちの中に具体的なイメージがわき、期待感が高まる様子が見られた。職員はこうした結果をもとに協議し、役割分担やサポート方法を工夫することで、子どもが主体的に参加できる環境をさらに整えている。今後は、子どもが自ら企画に関わる機会を広げられるよう、職員が支援しながら取り組みを進めていくこととしている。PDCAサイクルに沿った課題解決への取組が展開されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

大規模な新BOPの中で個々を大事にし、子どもたちにとって居心地の良い場所を作れるようチーム作りをする

【具体的な取り組み】

- ・子どもへの対応を全職員で共有し、日々のほか月1回の児童対応ミーティングで確認。
- ・配慮が必要な児童については、特性や日々の状況をふまえて共通理解を持ち、学校や関係機関と連携。
- ・BOPと学童クラブの子どもが一体的に遊びや行事を楽しめるよう企画・実施。

【取り組みの検証】

- ・職員の情報共有意識は向上したが、人数やスペースの制約から居場所づくりに課題が残る。
- ・担任とは連携できているが、学校管理職の理解が不十分で教室利用などが進んでいない。
- ・年間を通し保護者からの苦情が多く、職員の役割分担など全体的な運営を改善する必要性が考えられた。

【今後の方向性】

- ・引き続き職員で情報共有し、子どもの主体的活動を支援する。
- ・支援級開設に伴い、配慮が必要な子どもの情報共有を強化する。
- ・学校管理職に現状を丁寧に伝え、教室使用など物理的環境の改善を図る。
- ・職員の役割分担を整理し、支援や保護者理解を円滑に進める。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

大規模な新BOP学童クラブを子どもにとってより良い居場所とするため、上記の課題の解決に向けた取り組みを進めてきた。全職員で子どもへの対応方針を共有し、日々のミーティングに加えて月1回の児童対応ミーティングを設けるなど、組織的な情報共有体制を整えてきた。配慮が必要な子どもについては、特性や日常の様子をふまえた共通理解を図り、学校や関係機関と連携して支援してきた。また、BOPと学童クラブの子どもが一体的に遊びや行事を楽しめるよう工夫し、異年齢での関わりを広げてきた。こうした取組により職員の意識が高まり、支援体制も整いつつある一方で、児童数の多さや学校内スペースの制約など、居場所づくりには課題も残っている。これらの課題を踏まえ、今後は職員の役割分担の見直しを進めるとともに、学校との丁寧な協議を重ねて室内環境の改善を検討し、支援級開設に伴う情報共有の強化にも取り組んでいくとしている。PDCAサイクルに沿った課題解決への取組が展開されている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している ○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>世田谷区の広報体制に則って情報提供しており、問い合わせに丁寧に対応している</p> <p>世田谷区は、ホームページにおいて「学童クラブ」と題するページを設置している。そこでは、児童募集案内、新BOP施設一覧等々、項目別に詳細ページへのリンクを掲載している。新年度の児童募集案内は10月頃に公開されるが、ホームページからダウンロードできるほか、区役所等でも入手できる。また、募集ポスターも作成しており、クラブ内にも掲示している。現在籍者も更新が必要なので、クラブでは個別に手紙を配付して周知している。来年度募集案内が公表されると、クラブへの問い合わせも増えてくるが、職員は丁寧に対応している。</p> <p>配慮が必要だと思われる子どもについては、事前相談も行い、丁寧に対応している</p> <p>心身の成長、発達等による個別的配慮が必要な児童について、区から保護者に「児童票」の提出を求めている。児童票は各クラブで配付するため、保護者に来所してもらっている。児童票が提出された場合は、改めて保護者と子どもと一緒に来所してもらっている。クラブでは、自閉症、LD、アナフィラキシーなど要配慮の実状を尋ねるとともに、子どもの様子を観察している。(1)幼稚園、保育園での状況、(2)集団生活上の課題、(3)保護者の意向、要望等、も丁寧に聞き取っている。状況によっては、区に対して職員加配を要請し、体制を整えている。</p> <p>年間を通じて見学希望があり、希望者が知りたいことを聞きながら対応している</p> <p>見学希望は、児童募集案内の公開後のみならず、年間を通して希望がある。問い合わせがあったときは、まずは施設設備の状況を確認したいのか、それとも子どもが活動している様子を見学したいのかを尋ねている。前者であれば午前中の時間帯で都合を聞き、後者であれば15時前後の子どもが多数活動している時間帯で都合を聞いている。来所した際には、まずはクラブの概要、施設設備の現状、1日の流れ等を説明し、続けて施設内を案内し、見てもらっている。その後は質疑応答の時間としている。1人あたり20分～30分の時間をかけ、丁寧に説明している。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>新たに入所する子どもの保護者とは個人面談を行い、意向や感想などを聞き取っている</p> <p>新年度から新たに入会する子どもの保護者に対して、3月上旬の土曜日に入会説明会を開催している。学童クラブでの過ごし方、一日の流れ、決まりなどについて詳しく丁寧に説明している。さらに、6月には新規入会児童の保護者全員と個別面談を行っている。1人当たり20分程度の時間をかけ、保護者の意向、要望、質問、また学童クラブについて子どもが保護者に伝えている感想などを丁寧に聞き取っている。なお、個別面談は2年生、3年生児童の保護者に対しても、希望があれば秋季に実施している。</p> <p>新1年生の初登所日には、子どもの緊張をほぐし、クラブに馴染めるよう配慮している</p> <p>新1年生の学童クラブ初登所日は4月1日である。まだ入学式も行われていない時期での登所であり、子どもは緊張しているため、朝8時15分に1年生が登所すると職員と上級生とで温かくお迎えしている。上級生にも手伝ってもらい、靴の置き場所から始め、洗面台やトイレの使い方、荷物の置き方など一つずつ丁寧に説明している。その後はお遊び、昼食、おやつ、お遊びと18時15分の退所時刻まで過ごしている。職員は一人ひとりの様子を確認し、声をかけながら不安や緊張の軽減を図り、「楽しかった」と感じてもらえるように配慮している。</p> <p>職員は、子どもの思いを引き出し、把握できるように常日頃から心がけている</p> <p>「これをしてほしい」、「あれが欲しい」など、自らの思いを積極的に出せる子どももいるが、割合としては少数であり、自分の思いを口には出さない、出せない子どもの方が多い。そこで職員は、自ら子どもに話しかけ、まずは好きなものを聞くなど雑談から始め、続くやりとりの中で欲しいおもちゃや、読みたい本などについて聞き取っている。希望のあった玩具、遊具、書籍等々については購入を検討するが、予算上の都合で品目を絞る場合には子どもたちに投票してもらい、決めている。こうした働きかけにより、子どもが思いを自ら伝えられるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
<p>前年度の振り返りを踏まえ、年間計画を時間をかけて丁寧に策定している</p> <p>年間計画の冒頭に、(1)運営方針、(2)京西小新BOPで目指す子ども、(3)運営目標、(4)毎日の約束、を掲げるとともに、月ごとの活動予定を「運動イベント」など10の項目ごとに記している。次年度計画の策定は11月頃から開始している。今年度の振り返りを行い、日々の活動、イベント等について、次年度に向けて修正、追加、削減などを時間をかけて検討している。その上で、区及び児童館の方針、小学校の年間計画などを踏まえて次年度年間計画を確定させている。4月には、年間計画への職員の理解を徹底するための討議時間も設けている。</p> <p>子どもの様子や出来事はしっかりと記録に残し、ミーティングで職員全体で共有している</p> <p>クラブでは、毎日昼過ぎにスタッフミーティングを開いている。また、夕方にはプレイングパートナーによるミーティングを開いている。これらのミーティングでは、本日の予定、本日の振り返り、明日以降の予定等々の連絡に加えて、個々の子どもに関わる病気、ケガ、トラブル等々の報告もある。こうした報告については、関わった職員が子どもの個人記録ファイルに記録している。また、要配慮児童については、担当職員が様子などを逐次個人ファイルに記録している。2つのミーティングにより、個々の子どもに起きたことを全体共有している。</p> <p>保護者に対しては、複数の機会を設けてクラブの情報を伝えている</p> <p>クラブの状況や子どもの様子を保護者に伝える機会として、保護者のお迎え(全員ではなく、延長利用をした子どもの保護者及び任意でお迎えに来た保護者)、保護者会、個人面談がある。これらの場では、職員から直接口頭で子どもの様子や活動内容を伝えている。これらに加えて、「登退所管理システム」を用いて、必要に応じて一斉連絡や個別連絡を行っており、保護者に様々な情報を伝えている。さらに、すぐに保護者の返答、応答が欲しい場合は、電話を用いて情報を伝え、応答を得ている。このように複数の機会を用いて連絡や意向確認を行っている。</p>			

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している ○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している ○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している ○非該当
サブカテゴリー5の講評	
<p>公務員もしくは区長委嘱職員として、個人の尊厳の尊重等の順守を求めている</p> <p>クラブで働く職員は、区長が委嘱する職員であるプレイングパートナーを別にすると、全員が区の職員である。職員には地方公務員法が定める「秘密を守る義務」などサービスの義務がある。加えて、区は「世田谷区子どもの権利条例」を定めており、同条例に基づき子どもの尊厳と権利を尊重することを求めている。プレイングパートナーについても、「新BOPプレイングパートナー設置要綱」に基き、(1)子どもの人権の尊重、(2)子どもの性別、個人差等への配慮、(3)体罰の禁止、(4)秘密保持、等を課している。</p> <p>個人情報の保護について、徹底した取り組みを行っている</p> <p>クラブでは、子どもの個人情報保護を最重要事項としている。子どもに関する情報を外部機関とやりとりする可能性があることは、「児童票」において予め保護者の了解を得ているが、実際に提供する場合は事前に同意を得て、かつ最小限の内容に限定している。また、「個人情報管理マニュアル」の内容を全職員に周知して情報漏洩の防止に努めている。クラブで作成する文書類については、個人情報の記載があるものとならないものを区分し、前者については限定した職員のみが閲覧できるものとし、かつ鍵のかかる書庫で保管している。</p> <p>子ども間のいじめや暴力防止に向け、小学校や保護者と連携して対応している</p> <p>クラブでは、子ども間の暴力やいじめを防止するため、全職員が連携して対応にあたっている。トラブルが発生した際は、当事者や関係者から公平に状況を聞き取り、原因を明らかにすることに努めている。その上で、子どもたちがお互いの気持ちを理解できるよう促し、円満な解決を目指している。問題解決に向けて、保護者とも状況を共有し、協力し合って話し合いの場を設けている。また、小学校とも緊密に情報交換を行い、連携しながら取り組むことで、クラブ内だけでなく学校生活も含めた包括的な問題解決を目指している。</p>	

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
<p>区が作成したマニュアルを基本としつつ、独自マニュアルも活用している</p> <p>学童クラブにおいて必要なマニュアルについては、区が全区共通のものとして策定している。主なものとして「新BOP運営基準」、「放課後児童健全育成事業の運営方針」、「安全対策マニュアル」などがある。これらは学童クラブにおける業務のほぼ全領域をカバーしており、職員はマニュアルを基に業務を行っている。ただし、遊具の使い方、遊ぶ上でのルールなど、学童クラブごとに独自性があるものについては、クラブで補助的なマニュアルを作成している。マニュアルに依拠することで、職員間で統一感のある対応を取れるよう心がけている。</p> <p>標準的な業務水準の維持向上に向け、研修やミーティング等を活用している</p> <p>クラブでは、職員の専門性とサービスの質を維持・向上させるため、業務水準の確保に継続的に取り組んでいる。区の「新BOP運営基準」、「放課後児童健全育成事業の運営方針」を各職員が正確に理解できるよう、クラブ独自の補助マニュアルも作成し、いつでも確認できる体制を整えている。また、全職員に対して、定期的な研修や日々のミーティングにおける振り返りを実施することで、知識や経験の差に関わらず一定水準のサービスを提供できるよう努めている。さらに、ロングミーティングを通して職員間の知識共有を図っている。</p> <p>利用者の声を活用して、サービスの質を継続的に向上させている</p> <p>クラブでは、子ども、保護者、職員からの意見を積極的に取り入れ、サービスの改善に努めている。保護者からの要望に応じてデリバリー弁当事業を導入して負担軽減を図るなど、子どもや保護者のニーズに合わせた柔軟なサービス提供に努めている。また、職員からの意見はミーティングを通じて集約し、遊びの工夫、業務効率化などに活かしている。さらに、区の「新BOP運営基準」、「放課後児童健全育成事業の運営方針」といったマニュアルを活用し、職員一人ひとりが専門職としての意識を高め、質の高いサービスを安定して提供できるようにしている。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの個性や発達に応じた遊びを通じて、主体性や社会性を育む支援をしている</p> <p>クラブでは入会申請時に保護者への聞き取りを行い、子ども一人ひとりの留意点を把握したうえで、児童票や記録簿を活用しながら支援の方向性を検討している。年齢の違いを互いに認め合い、遊びを通じて主体性を育めるような支援が行われている。職員は、子どもが安心して過ごせる環境を整えるために、それぞれの興味や発達段階に応じた遊びを模索し、そばで見守る姿勢を大切にしている。また、職員間での情報共有も積極的に行われており、異年齢交流を中心とした行事を通じて、子どもたちの社会性や人間関係の構築を支えている。</p> <p>職員は子どものトラブルに寄り添い、なるべく子ども同士で解決できるよう援助している</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに対し、子どもの意見に耳を傾けながら、感情の高ぶりを和らげる支援が行われている。トラブルが発生した際には、双方の子どもから状況を聞き取り、事実関係を整理したうえで対応している。子どもたち自身が問題を解決できるよう、見守る姿勢を大切にしている。必要に応じて場所を変えて気持ちを落ち着かせる時間を設けるなど、クールダウンには事務室を活用し、安心して気持ちを整えられるよう工夫している。こうした対応は業務日誌や個人記録簿に記録され、職員間で共有されている。</p> <p>子どもたちがお互いの特性を認めながら、仲間として共に過ごせるようにしている</p> <p>障害や発達面で配慮が必要な子どもが、他の子どもと共に安心して過ごし、成長できるよう支援を行っている。職員は一人ひとりの特性を理解し、落ち着いて遊べる環境を整えることで、その子にとっての居場所づくりを大切にしている。周囲の子どもたちも自然と仲間として関わられるような雰囲気づくりを意識し、子ども同士が同じ空間で過ごすことで、互いを認め合いながら関係性を育んでいる。必要に応じて区の臨床心理士の巡回相談や看護師との連携など、協力体制を整え、専門的な視点からの助言を受けながら支援の質を高めている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>職員は、子どもが自分で考えて意見を言うことや行動する力が育つことを大切にしている</p> <p>職員は、子どもが児童期にふさわしい経験を積み重ねるために、自主性や自発性を尊重した環境づくりを重視し、発達段階に応じた遊びが展開できるようにしている。子どもたちの要望や意見に耳を傾け、「どうしたい?」「どうしたらいいか?」といった対話を通じて、子ども自身が考えたアイデアの実現に向けて働きかけている。個人記録簿を活用し、子ども一人ひとりの特性や状況を把握しながら支援を行っている。また、職員全体で子どもの心身の安定や安全に配慮した生活習慣の形成、友だちを思いやる言葉遣いや挨拶なども大切にしている。</p> <p>子どもたちが集団遊びに興味を示し、みんなで遊ぶ楽しさを知るための援助をしている</p> <p>集団遊びでは、子どもたちが興味を引く楽しそうなものを選び、参加への意欲を高めている。ルールや注意事項を分かりやすく説明し、子どもからの質問にも丁寧に応じている。イベントの紹介や日時、活動内容やルールをポスターやホワイトボードで掲示し、誰もが分かるようにしている。また、体育館などへの移動時には、子どもたちを集合させ、落ち着ついた状態で話が聞けるよう配慮し、安全面に気をつけている。職員は、子どもが集団の中で各自の役割を見つけ、体や心を動かしながら活動に参加できるよう、声かけ等の支援を行っている。</p> <p>職員は、子どもたちが集団で生活するための基本的な生活習慣が身につくよう支援している</p>			

子どもたちにはBOPは多くの友だちと共に過ごす場であることを伝え、安全面への注意を促しながら、日々の育成を行っている。トラブルや子ども同士の接触、危険な場面を見かけた際には、職員がその場で声かけを行い、各部屋の見守りを徹底している。挨拶や手洗いなどの習慣が自然に身につくようにも援助している。登所・帰宅管理には連絡帳アプリを導入しているが、入力漏れや誤入力の確認作業を煩雑にすることもあるため、職員が複数で確認を行うことで正確な運用を目指している。業務日誌には、こうした生活支援や安全管理の様子が記録されている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目3の講評			
<p>さまざまな種類の行事があり、子どもたちが誰でも参加し、楽しめるよう工夫されている</p> <p>行事は子どもたちが興味を持ち、自ら進んで参加できるよう工夫されている。手作り活動やスポーツ系のイベント等、内容は多岐にわたり、参加する子どもたちが楽しみながら関わられるよう配慮されている。区のスポーツ推進委員によるスポーツ紹介など、外部との連携を活かした取り組みも行われており、障害のある子どもも含めて誰もが参加できるよう配慮されている。低学年から高学年まで幅広い年齢層が楽しめるよう、年齢や発達段階に応じた内容が工夫されており、行事を通じて子どもたちの社会性や協調性を育むことを目的とした支援が実践されている。</p> <p>職員は子どもたちの要望を取り入れた行事を企画し、感想や反省点等課題も抽出している</p> <p>日頃の子どもたちとの会話から、子どもたちの「やってみたい」という声を尊重し、行事に反映する姿勢が見られる。学区外、地域での活動ができない状況だが、校内で楽しめる企画を工夫し、子どもたちが主体的に関われるよう配慮されている。イベントでは、子どもたちが参加しやすいよう職員が役割分担をしながら持ち場を担い、活動への参加意欲を高める工夫がなされている。ロングミーティングでは子どもの感想や反省点、今後の課題を出し合っている。なお、子どもたちの地域との関わりの選択肢として、近隣の児童館との連携が今後期待される。</p> <p>毎月の「新BOPだより」で、行事や子どもの様子などを子どもや保護者に伝えている</p> <p>イベントの前にはポスターの掲示やおたよりによる周知を行い、必要な持ち物がある場合には紙ベースでの案内も併用するなど、情報の伝達方法に配慮が見られる。毎月発行されるおたよりには、行事の内容や持ち物、夏休みの利用案内、連絡協議会の報告などが記載されており、保護者向けの情報とともに、子ども向けのわかりやすい内容も盛り込まれているため、家庭内での会話のきっかけにもなっている。おたよりは連絡帳アプリを通じて配信されており、保護者が日常的に情報を受け取りやすい環境が整えられており、連携が深まっている。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>子どもが通いたくなる環境作りに努め、職員が協力し合って改善を重ねている</p> <p>子どもが自ら進んで通い続けられるよう、「今日、学童に来てよかった」「明日も来たい」と思える環境づくりを目標に掲げている。職員一人ひとりが、その実現に向けて意識的に取り組みを進めている。昼のミーティングでは、前日の子どもの様子やけが、臨時職員からの伝達事項などを共有し、その日の活動の見通しを立てている。月に一度のロングミーティングでは、職員全員が時間を合わせ、より深い振り返りと改善に取り組んでいる。夕方には臨時職員とのミーティングも行われ、子どもの様子や課題を出しあい業務日誌に記録され活かされている。</p> <p>子どもたちが一日の時間の流れを把握しながら、継続的な遊びができるよう配慮している</p> <p>新BOPの活動場所は2部屋に分かれており、おやつ時間以外どちらの部屋も自由に使用している。おやつ時は音楽を流して移動を促し、学童クラブ専用室としている。子どもたちが継続的な遊びで使用する段ボール箱や工作の材料が、見やすい場所に配置されていることで、自由な遊びへの意欲が自然に引き出されている。当日のスケジュールはホワイトボードに記載され、子ども自身が確認できるようになっており、活動の流れを理解しやすい環境が整えられている。遊び場での注意事項もポスターとして掲示され、安全面への配慮も視覚的に行き届いている。</p> <p>新BOPでは、すべての子どもたちが同じ空間を利用し、行事も一緒に参加している</p> <p>学童クラブと放課後子供教室との一体型運営の新BOPとなっており、子どもが活動プログラムに参加しやすい環境を作っている。行事や遊びの場において子どもたちを分け隔てなく運営されており、空間や活動内容に明確な区別がないことで、子どもたちは同じ活動に参加することができている。学童クラブ在籍児童に対しては、出欠や帰宅管理、間食の提供などの面で一定の制約を感じる場面もあるが、そうした状況にも配慮しつつ、子どもの自立を促す選択肢の一つとしてBOPを上手く活用できるようにしている。保護者とも、そうした考えを共有している。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>日常的に副校長や担任と子どもの様子や学校行事について情報交換し、連携を図っている</p> <p>子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校とは密な連携体制が取られている。学校行事や下校時刻などが知らされており、クラブではそれに合わせたスケジュールを立てている。学校からクラス名簿の提供を受けることで、子どもの行動が把握しやすくなっている。また、担任教諭がクラブ室を訪れて子どもの様子を確認するなど、日常的な情報交換が行われている。4月には、新1年生の支援に向けて担任と職員が話し合いを持ち、学校生活に不安を抱える子どもや養育環境に課題のある子どもへの配慮についても、副校長や担任と随時情報共有を行っている。</p> <p>課題を抱える子どもには、学校や保護者とともにその子の特性に寄り添って援助している</p> <p>不登校など、学校生活に困難を抱える子どもに対しては、学校と密に情報を共有しながら支援体制を整えている。学校生活に不安を抱え、学校に長時間滞在できない子どもの場合、いったん帰宅して午後から学童クラブに通うなどの対応もしている。子どもにとって良い環境となるよう、柔軟な対応を取り、子どもの特性や気持ちに寄り添った支援をしている。学校と同じ施設内にあることも利点であり、学校と連携しながら最適な環境を模索する姿勢も見られる。対応の経過は業務日誌や記録簿に記録され、支援の継続性と質の向上に役立っている。</p> <p>障害のある子や配慮が必要な子には、学校・区・他機関と連携して支援の質を高めている</p> <p>障害のある子や配慮が必要な子どもについては、「要配慮児対応指針」に基づき目標を定めて育成をしている。支援の段階や目標を職員間で協議しながら、学校とも連携し、個々のニーズに応じた援助が実施されている。区の臨床心理士による巡回相談や看護師への相談体制も整っており、専門的な視点からの助言を得ながら、支援の質を高めている。子ども家庭支援センターや児童課とも連携を図り、情報共有しながら子どもが安心して過ごせる環境づくりに努めている。支援の経過や対応内容は業務日誌や記録簿に記録され、継続的な支援の基盤となっている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつの時間では、子どもたちが落ち着いて過ごせるよう部屋や人数の工夫をしている</p> <p>おやつの時間は単なる間食ではなく、遊びと同様に子どもにとって大切なひとときと捉え、落ち着けるように一部屋をおやつ専用の部屋としている。在籍人数が多いため学年ごとに分けて提供している。「おやつの時間」とは言わず「わくわく」と表現することで、おやつが提供されないBOP利用の子どもたちに配慮している。おやつの担当はミーティングで確認し、指導員と臨時職員とが関わっている。子どもたちが安心しておやつの時間を楽しめるよう、環境づくりに細やかな配慮がなされている。日々のおやつの内容はメニュー表や業務日誌で管理されている。</p> <p>子どもの体調を確認し、個人差や帰宅時間を考慮したおやつの提供を行っている</p> <p>クラブでは、子どもの来所時間や帰宅時間、夕食の予定などを十分に考慮し、おやつの提供時間や内容、量に工夫を凝らしている。早帰りの子どもには学年に関係なく早めに提供する等、柔軟に対応をしている。また、子どもによって食べる量に差があることを踏まえ、余った分はお代わりとして配布している。おやつの時間は単なる間食の場ではなく、子どもの体調確認やイベントの予定、季節の話題や子どもたちに周知したいことを伝える大切なコミュニケーションの場として位置づけられており、生活のリズムや情緒面の安定にもつながっている。</p> <p>食物アレルギーのある子どもには、複数の確認体制が取られ、安全に配慮している</p> <p>子どものアレルギーに対しては、入会申請時にアレルギーの有無を確認し、保護者との面談を実施している。専門業者からおやつが搬入される際には成分表が添付され、当日は複数の職員がパッケージの成分を読み合わせるなど、確認が徹底されている。保護者にもメニュー表を渡し、事前に確認してもらうことで家庭との連携も図っている。「新BOPにおける食物アレルギー児童対応の手引き」や「緊急時対応マニュアル」に基づき、職員はアドレナリン自己注射薬の講習も受講している。万が一の事態にも迅速かつ適切に対応できる体制が整えられている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>職員配置を工夫し、子どもたちの行動を見守ることで、けがを未然に防ぐようにしている</p> <p>ミーティングで職員の配置場所を確認し、室内での安全確保に努めている。子どもの様子を見ながら、けがにつながらないように声かけをしている。走り回る子どもがいた場合は制止しながら、なぜ走ると危ないのか説明し、けがにつながる行動を未然に防いでいる。病気やけがの予防についても、子どもが理解しやすいよう事前に説明する機会を設けている。学級閉鎖の時も、罹患していない子どもは、体調を確認しながら受け入れている。保護者や関係機関との連携も、適切に行われている。けがの記録簿を活用し、再発防止に向けた取り組みも実施されている。</p> <p>職員は子どもの体調の変化に気をつけ、子どもが体調不良の時は静かに休ませている</p> <p>日々の受け入れ時に職員が一人ひとりの様子を丁寧に確認し、体調の変化に気づくことができるようにしている。発熱や嘔吐、けがをした場合には、他の子どもと距離を保てる職員更衣室で静かに休ませるなど、安心できる環境が確保されている。子ども自身が頭痛や吐き気など具合が悪い場合は職員に伝えるよう日頃から教え、自身の健康への意識を育む支援が行われている。降室時には時間帯に応じて校門の出口を変更し、門まで見送りながら安全に帰宅できるよう配慮されている。けがや事故については記録簿や報告書により適切に管理されている。</p> <p>学校や関係機関と連携を取り、医療的配慮が必要な子どもを安全に受け入れている</p> <p>医療的ケアが必要な子どもに対して、保護者からの聞き取りにより留意点を把握し、専門機関や看護師との連携のもとで適切な支援が行われている。車いすを使用する子どもには職員がマンツーマンで対応し、他の子どもと一緒に遊べるよう、環境や遊びの工夫がされている。学校や保護者との連携も円滑であり、児童課の看護師とも情報を共有しながら、医療的ケア用記録簿を活用した管理体制が整えられている。クラブでは、登録児童数の増加に伴い、医療的ケアを衛生的かつ安全に行える場所の確保や、地域関連機関や児童課と協議を進める必要を感じている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>「登退所管理システム」と職員の連携により、子どもの安全を確保している</p> <p>クラブでは、区の「登退所管理システム」を活用し、子どもの出欠管理を徹底している。システムを通じて入退室時間の連絡や緊急時のメール配信を行うほか、システムへの入力漏れや変更があった場合には、保護者に電話をかけて確認を取っている。また、出席予定の子どもが来所しない場合は、学校への確認や通学路の捜索も行い、子どもの安全を確保している。職員は連携して保護者との密な連絡体制を築くことで、緊急時にも迅速に対応できるようにしている。</p> <p>保護者と緊密に連携し、子どもの成長を共に育む信頼関係を築いている</p> <p>クラブでは、保護者との緊密なコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努めている。お迎え時にその日の子どもの様子を丁寧に伝えるほか、トラブル発生時には迅速に対応している。また、「BOPだより」で、イベントの告知、活動報告、職員紹介、各種お知らせなどを定期的に発信している。さらに、京西小学校夏祭り(地元主催)、児童館祭りなど、子どもたちの活動を直接見てもらえる機会を設けることで、保護者同士や保護者と職員との交流を深めながら、地域全体で子どもを育む環境が作れるよう取り組んでいる。</p> <p>保護者の就労状況や家庭の事情に合わせて、きめ細やかな支援を行っている</p> <p>クラブでは、保護者の就労状況や家庭の事情を把握するために、個人面談(年1回)や日々のお迎え時のコミュニケーションを大切にしている。家庭の事情に配慮した柔軟な帰宅時間の設定や延長利用に対応するほか、不規則な勤務体制にも柔軟に対応できるよう職員体制を構築している。また、保護者が安心して就労できるよう、利用料の減額や免除の制度案内も行っている。さらに、「登退所管理システム」や「BOPだより」を通じて、子どもたちの様子や事業所の取り組みを発信するなど、保護者の子育てを多角的にサポートしている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域行事への参加や交流を通して、子どもたちが成長できる場を提供している</p> <p>クラブは地域とのつながりを大切にしており、子どもたちの多様な体験や交流を通じて成長できる機会を提供している。区や地元のお祭り、複数学区の子どもが集まる「児童館こどもまつり」(10月)などの地域行事に積極的に参加することで、子どもたちは他の小学校の子どもたちや地域住民との交流を深めている。児童館祭りでは、子どもたちが企画した出店などを通じて、商品売上の仕事に携わるなど貴重な経験を積んでいる。こうした取り組みにより、子どもたちが地域に愛着を持ち、社会性を身につけられるよう図っている。</p> <p>学童クラブを退会した後は、児童館へスムーズに移行できるよう促している</p> <p>学童クラブの入会は原則して小学3年生までである。小学4年生以降はBOP(Base of Playing、遊びの基地)のメンバーとして引き続き一緒に遊ぶこともできるが、終了時間は夏季17時、冬季16時30分である。このため事業所としては、小学3年修了児童が、学童クラブ退会後も安心して居場所を見つけられるよう、将来を見据えた支援に取り組んでいる。具体的には児童館と連携し、児童館のイベントは常にチラシを掲示して紹介するほか、児童館職員も適宜事業所を訪れて、児童館が新しい活動の場になりうることを伝えている。</p> <p>町内会など地域との連携により、子どもが交流できる機会を作っている</p> <p>クラブにおいて、児童館と協力して児童館が主催するイベント(例:キャッチボールタイム、ドッジボール大会等)を紹介している。また、地元町内会が実施するイベントも紹介している。とりわけ8月に京西小学校で開催される夏祭りは、日曜日の開催ではあるが、職員と子どもと一緒に参加している。さらに、用賀まちづくりセンターが主催するイベント(小学校で開催し、パフォーマンスを披露)も紹介している。こうしたイベントには他の小学校の子どもも参加しており、子どもたちにとっては交流の場が広がることから、積極的な参加を呼びかけている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル①	定期的な話し合いで情報共有を徹底し、学び合いが組織力と意欲向上につながっている	
内容①	新BOPでは、毎日のミーティングに加え、月1回のロングミーティングを重視し、議題を事前に周知して建設的な意見が出せるようにしている。3月は2回行い、1年の振り返りと次年度の計画を会計年度任用職員も参加できる体制で進めている。勤務体制で不参加の職員にも情報を共有している。配慮が必要な子どもや遊びに関わるプレイングパートナーは、夕方職員と短時間打合せを行い、子どもの様子を聞き取り翌日の全体ミーティングに反映している。職員が学び合う姿勢は刺激となり、意見を出し合うことで達成感も得られ、組織力向上につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	職員は子どもたちが楽しめる行事を計画し、子どもたちが参加しやすいよう工夫している	
内容②	子どもたちが新BOPに通うことが楽しみとなるよう、年間を通じて行事を計画的に実施している。担当職員が企画を進め、ダンボールやストローなど身近な素材を使った工作や風船バレー、紙飛行機飛ばし、校庭での水遊びなど、季節感を取り入れた活動をしている。今年度は、世田谷区スポーツ推進委員の協力を得て、ポッチャ、T-ボールを行った。また、地域の児童館からドッジボールの練習をすることで児童館チームに入り地域とつながる機会となった。ポスター掲示で周知し、新BOPだよりを通じて行事の予告や報告も行われている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	子どもたちの声に耳を傾け、遊びや学びの環境を整えている	
内容③	子どもたちの多くは、自分の気持ちや「やりたいこと」を言葉にするのが得意ではないが、職員が日頃から一人ひとりに積極的に話しかけ、趣味や好きなものを尋ねるなど、会話の中から「欲しいおもちゃ」や「読みたい本」などの希望を引き出すよう努めている。子どもたちから出た意見は、購入を検討する際の貴重な情報源となっている。予算の都合上、全てを実現することは難しいが、その場合は子どもたちに投票で決めてもらうなど、一緒に考える機会を設けている。こうした取り組みにより、子どもたちが自ら声を上げやすい雰囲気醸成している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	運営層のリーダーシップにより、職員の役割や業務を整理・支援し、意欲向上につなげるとともに、学校との協力関係づくりも進めている
	内容	全体的な運営の改善をはかるため、事務局長の考えの下、区の規定に沿った職層ごとの日々の役割や業務分担を整理、明確化し、責任感と意欲の向上につなげている。経験豊かな職員には進捗を認めて評価し、経験の浅い職員には相談やOJTで支援している。ミーティングでは子どもへの良い関わりを確認し、自信をもって対応できるよう援助している。プレイングパートナーにも公的施設職員としての自覚と責任を促し、全体的な質の向上を図っている。また、課題である学校管理職への働きかけも丁寧に行い、理解が深まり協力的な関係が築かれつつある。
2	タイトル	帰宅予定時刻に帰宅していない子どもがいる場合は、職員が探しに出かけるなど、子どもの安全確保に注力している
	内容	クラブからの退所時刻については、子どもと保護者とでその日の朝、予め決めておき、登所時点で退所時刻を事業所に申告するという仕組みを取り入れている。退所時刻になると子どもは帰宅するが、保護者から「帰宅時刻を過ぎているが、まだ子どもが帰っていない」という連絡が入ることもまれにある。そのような場合、職員は京西小学校から自宅までのルートを歩いて子どもを探すことにしている。ルート途中にある公園など、子どもが寄り道しそうな場所などにも出向き、子どもをいち早く見つけて身の安全を確保するよう努めている。
3	タイトル	配慮が必要な子どもへの支援が計画的に行われ、その子が落ち着いて学童クラブで過ごし友達との交流や意欲を高められる環境が整っている
	内容	障害や特に配慮が必要な子どもに対して、職員が話し合いを重ねながら、その子が安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。孤立しがちで落ち着きのなかった子どもが「くじの店」や「びじゅつかん」といった店を開くことで友達との関わりを持ち、学童に来ることへの意欲が高まり、安定した生活を送るようになっていく。他の子へも遊びが広がっている。「配慮児童対応指針」に基づき、個別対応から見守り対応へと発達段階に応じた支援が計画的に進められており、その子の特性を記入した「簡易プロフィール」はすべての職員が活用している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	児童館との日常的な連携を深め、児童館まつりへの出店参加を通じて、子どもの主体性と地域とのつながりが育まれることを期待したい
	内容	クラブでは、新BOP連絡協議会の開催や児童館地域懇談会への出席など、地域との連携に一定の取り組みが見られるが、児童館との日常的な関わりは少ない状況となっている。今後は、児童館まつりへの出店を目標に、参加希望者を募り、内容や準備を子どもたちと話し合いながら進める過程を職員が支援していくことに期待したい。子どもが仲間と協力し、役割を担う中で主体性が生まれ、地域とのつながりを実感できるような取り組みを進めながら、児童館職員との交流を通じて、卒所後も安心して過ごせる居場所としての認識が深まることが望まれる。
2	タイトル	新入職員の教育体制について、制度化を検討することが期待される
	内容	事業所には、新BOP指導員(会計年度任用職員)、学童クラブ運営補助員(新BOPプレイングパートナー、略称PP)といった複数の職種の職員が在籍している。特にPPIについては、教員や保育士を目指している学生、子育て経験のある人、子どもが好きな人などの応募が期待されており、学童勤務が初めての人も多い。こうした職員が配属されたときは、常勤職員もしくは先輩指導員がOJT的な指導を行っている。しかし現在は、教育係として任命されることや、メンターを置くといった仕組みはない。教育指導体制の整備を検討していくことに期待したい。
3	タイトル	体調不良やけがをした子どもが、安心してゆっくり休むことができる場所の確保と整備が望まれる
	内容	育成室は子どもたちが日常を過ごすための2部屋が確保されており、恵まれた環境が整備されている。一方で、けがや体調不良等の場面に対応するための静養スペースの充実が課題となっている。利用児童数の増加に伴い、体調を崩す子どもも増えることが予想される中、現在は事務室奥の職員更衣室を静養スペースとして活用している。子どもを安静にするため職員の工夫により床にシートを敷き座椅子で代用しているが、衛生面や安静の確保において十分とは言えない。区には改善要求が提出されているものの、より快適で安全な静養環境の整備が望まれる。